

あとがき

あつという間の半年間でした。

一か月に数回の打ち合わせは、濃密でした。段取り良く進めないとすぐ滞ってしまったからです。インタビューは、思っていた以上に日程調整等大変でした。レストランでの取材は、楽しくおいしいアジアの食事（食材）つきでしたからラッキーでした。

そもそもアジアの女性に絞ったのは、人々が行きかう街中や、駅頭、公民館などで見かけることが多くなり、目立ってもいたのに、近くて遠い存在でしかなく、意外に知らないまま暮らしていることに気づいたからです。政治分野では歴史認識の違い

で、ちぐはぐな思惑が乱れ狂っています。

しかしインタビューでは、そんな心配は吹き飛びました。認め合いたい、理解し合いたい、手をつなぎ合いたい、語り合いたいと、お互いに願っている事を強く、強く感じました。もつと時間やゆとりがあつたら、ミャンマー・台湾・インドなどの女性にも会うことが出来たかも知れません。

楽しそうに街を闊歩しているアジアの女性には、自信や自負や屈託ない国民性が、社会参加への積極性になっっているように感じています。

教育の機会を求めて訴えた少女や、世界で唯一車の運転が禁じられているサウジアラビアの女性達もいます。そんな世界で、わたし達も足をしっかりと地に付け日々を送りたいと思います。

男女平等について、こんな報道が目につきました。『世界経済フォーラム（WEF）が発表した「世界男女格差報告で」日本は対象の一三六カ国中一〇五位。二〇〇六年の調査開始以来最も低かった。背景には、「夫が仕事、妻が家」という役割分担意識が根強いことがありそうだ。』（朝日新聞一〇月二七日）と報じていました。日本ではこの三十年近く働く女性の六割が出産を機に退職しているとも。

この統計によると、ランキングではフィンピンがなんと五位でダントツ。ぐっと下がるがアジア国の名前は中国が六十九位、日本一〇五位、韓国一一一位と出ていました。

他方、アイスランドの一位 フィンラン

ド二位 ノルウエー三位など、北欧が上位を占めています。そんな北欧の女性に、社会進出、活躍、仕事と家庭の両立などについて、機会があったらいろいろ尋ねたいと思います。（入江）